

チーム医療や地域医療の中で
活躍する薬剤師

医療DXが目指す 未来と薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会理事
舟越亮寛

埼玉県薬剤師会常務理事
宮野廣美

医療DXの推進に関する工程表に基づき、医療情報共有基盤の整備が着々と進められている中、薬局においては電子処方箋の普及やオンライン服薬指導などの対応は待ったなしの状況である。

今後、医療DXを活用した国民のさらなる健康増進、切れ目なく質の高い医療等の効率的な提供、業務効率化等の実現に向け、薬剤師サービスとしての対人業務の質の向上、医療機関等への効果的かつ効率的な情報フィードバック、患者フォローアップなどの更なる推進が求められる。

基調講演では、「医療DXの現状とこれから—最新情報アップデート」と題して、厚生労働省医政局参事官（特定医薬品開発支援・医療情報担当）の田中彰子氏に講演いただく。全国医療

情報プラットフォーム、特に薬局でも重要な情報になる電子カルテ情報共有サービス 6 情報について注目したい。

講演 1 では、「薬剤師サービスにおける医療 D X の活かし方」と題して、日本薬剤師会副会長の原口亨先生に講演いただく。電子処方箋や情報共有に向けた標準化、その他医療 D X 推進における阻害要因やその解決についてまで考察いただく。講演 2 では、「電子処方箋の普及と活用について」と題して、厚労省医薬局総務課電子処方箋サービス推進室課長補佐の森田和仁氏に講演いただく。いかに電子処方箋が医療 D X を推進するために重要なメソッドであるか、薬局における導入が日本の医療 D X の基盤であるかを電子処方箋の現況についてと合わせて現場の課題をどう克服していくことを考えているかを注目したい。

本分科会では、これらに関し最新の
情報にアップデートすると共に、デジ
タル技術が進む中で薬剤師がやるべき
ことの本質について議論を行う。

(舟越亮寛)

座長
日本薬剤師会常務理事
山田武志
埼玉県薬剤師会常務理事
町田充

近年の生命科学研究の急速な進歩と少子高齢化の進展を背景に、薬剤師はチーム医療・地域医療の中で薬の専門家としてのジェネラリストであることに加え、特定の領域に精通したスペシャリスト（専門薬剤師）として、その職能を発揮することが望まれている。

そのような背景をもとに、2020年には「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」が示され、専門性を有する薬剤師の名称と認定基準の定義、第三者機関認定による専門薬剤師の認定要件についての問題が指摘され、いくつかの課題が示された。

そこで、本分科会では現行、様々な認定・専門薬剤師を取得する薬剤師が多くなっている中で、薬局薬剤師が取得できる認定・専門薬剤師を中心に、チーム医療や地域医療の中で活躍する薬剤師の概要と活動の事例を紹介しながら、今後の薬剤師の専門性のあり方について議論する。

基調講演では「薬剤師の資質向上とキャリアパス：生涯研鑽と専門性のあり方」と題して、神戸大学医学部附属病院薬剤部の矢野育子教授から、日本学術会議から発出された提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」を受け、「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」を20年度から3年間にわたり実施してきた研究結果についてご紹介いただきながら、薬剤師の資質向上とキャリアパスについてご講演いただく。

次の講演ではそれぞれの専門分野で地域医療の中で活躍する3人の講師により「薬剤師の質的向上と専門性へ」と題してご講演をいただく。まず初めに講演1としてメディカプラン京都すこやか薬局の大東真理子氏に「慢性腎臓病（CKD）」を例に、次に講演2として北里大学北里研究所病院薬剤部の井上岳氏に「糖尿病」を例に、そして講演3とし帝京大学ちば総合医療センターの飯塚雄次氏に「褥瘡医療」を例に、それぞれご講演いただき、最後に総合討論として、認定・専門薬剤師のチーム医療や地域医療における貢献について議論を行いたい。

(山田武志)

県薬企画

若手薬剤師が考える「彩」ある職能の可能性

座長
埼玉県薬剤師会青年部副部会長
寺本卓矢
埼玉県薬剤師会青年部副部会長
清水敦子

本プログラムは分科会から派生した、開催県である埼玉県薬剤師会の特別企画である。この企画の見どころは、若手薬剤師からの視点にフォーカスしているところである。薬剤師を取り巻く環境は刻々と変化しており、医療DXをはじめとする社会的な動きは新し

い時代に入る兆しを示唆している。それに伴って、薬剤師の役割が改めて問われているが、ここまでの変遷や現状は若い薬剤師の目にはどう映っているのか、また自分たちの職能の未来をどう考えているのか、若手薬剤師の声を聞いてみてほしい。

演者は全員6年制卒の若手薬剤師である。そして厚生労働省、薬局、ドラッグストア、病院と各フィールドから集結しており、多角的な視点での見解が期待される。

基調講演は厚生労働省地域医療計画

課の池田大輔氏。現在、各都道府県において第8次医療計画に基づいた取り組みが実施されているが、その最新の医療計画情報を切り口に、「患者のための薬局ビジョン」を踏まえ、薬剤師への期待や目指したい薬剤師像が示される。

続く講演1は中央薬局の長塚健太氏。「健康から看取りまで」人生の全てのフェーズで薬剤師は支援できるという気づきから、特に健康な方へのアプローチを「かかる前薬剤師」と称し、一次予防の視点で一貫した活動が紹介される。講演2ではウエルシア薬局の伊藤龍児氏がドラッグストアの地域活動について講演する。「病気が人生の枷になってほしくない」という自身の価値観から、薬局から外に出て、地域

で健康サロンを展開している。講演3では自治医科大学付属さいたま医療センターから萩原瑛里香氏が講演する。病院薬剤師が起点となる地域連携として、院外処方箋への検査値記載をきっかけに地域薬局との連携の様子などが紹介される。

もう一つの見どころは後半のパネルディスカッションで、会場参加型のディスカッションを計画している。演者間の討論だけでなく、参加者のスマホやＰＣ端末を通して薬剤師職能に関するアンケートを全員に実施し即時集計して表示する。

薬剤師の彩ある職能の可能性、未来を切り開く力になる、夢ある討論を期待したい。

(武笠真由美)

第57回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

一般社団法人 埼玉県薬剤師会
会長 齊藤 祐次

〒330-0062
さいたま市浦和区仲町三一五一
電話 ○四八（八二七）〇〇六〇
（埼玉県民健康センター四階）

公益社団法人 東京都薬剤師会
会長 高橋 正夫

〒101-0054
千代田区神田錦町一―一二一
電話 ○三（三二九四）〇二七一
（東京都薬剤師会館）

一般社団法人 大阪府薬剤師会
会長 乾 英夫

〒540-0019
大阪市中央区和泉町一―三―八
電話 ○六（六九四七）五四八一

一般社団法人 京都府薬剤師会
会長 河上 英治

〒605-0863
京都市東山区東大路五条上る梅林町五六三
電話 ○七五（五五一）〇三七六

九州山口薬剤師会
会長 原 亨

福岡県薬剤師会
会長 小田 稔
大分県薬剤師会
会長 中 芝彦

佐賀県薬剤師会
会長 佛坂 浩
鹿児島県薬剤師会
会長 小田原 一弘

長崎県薬剤師会
会長 田代 浩幸
沖縄県薬剤師会
会長 前 濱 朋子

熊本県薬剤師会
会長 富永 孝治
山口県薬剤師会
会長 吉田 力久

一般社団法人 日本病院薬剤師会
会長 武田 泰生

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷二―二―一五（長井記念館）
電話 ○〇三（三四〇六）〇四八五番
FAX ○〇三（三七九七）五三〇三番

Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Society of Japan
財団法人 一般社団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団
会長 奥田 晴宏

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷二―二―一五（長井記念館）
電話 ○〇三（三四〇〇）五六三四番
FAX ○〇三（三四〇〇）三一五八番

当ファイルの著作権は株式会社日経新聞またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>